

6月

9月

12月
定例会

3月

むらやま 議会だより

第100号
記念号

2019年1月15日
発行



〈表紙について〉

村山市が誇る日本一社林崎居合神社、居合振武館にて、居合道体験プログラムがスタートしました。体験用の道着に袖を通し、集合写真を撮りました。振武館の空気に、議員一同身の引き締まる思いです。

写真／小松 昭二先生（範士八段）

携帯からはコチラ→



会

ゴールデンガールズ ファンクラブ

あけましておめでとう
ございます。
——お忙しいところ、
議会だより座談会へご
参加くださり、ありが
とうございます。



村山らしいおもてなしをサポート

左から 石川さん、秋葉副議長、小室さん、川田議会だより副委員長、浅黄さん

ブルガリア新体操の
事前キャンプはボラン
ティアや市民が参加す
る活動で市内外から注
目されております。
まずは、ファンクラ
ブ立ち上げのきっかけ
を教えてください。

(小室) 初代代表であ
る日塔さんの「おもて
なしの気持ちをおリン
ピックまでつなげてい
くために応援団を作り
たい」という気持ちか
ら昨年のボランティア
を行ったメンバーのう
ち6名が発起人となり
立ち上げました。
——キャンプ時に特に
気をつけたことはあり
ましたが。
(浅黄) 怪我がないよ
うにマットをいつも掃
除して練習環境を整え
ることが一番です。
(小室) 選手たちは、
その姿を見てくれたよ
うで大変喜んでくれま
した。
(石川) 我が家に選手
が来た時も「綺麗にし
てくれて」と感謝され
ました。
(小室) 「ほめ言葉より
もそういう形でのボラ
ンティアがすごく心に
残った」と話してくれ
ました。

——現在の会員数と今
後の方針は。

(小室) 目標の300
名を達成し、現在は
330名です。ですが、
今年の3月31日で新規
募集を終了し、その後
は応援体制を作ってい
きます。
(石川) 今回の浅草寺
への大わらじ奉納へは

市民800名が参加さ
れたとのことですが、
世界ですので、それを
上回る規模でブルガリ
アの旗やTシャツを着
て村山市をPRしたい
です。また、和風の応
援も考えています。
(小室) 議員の皆さん
もファンクラブ参加へ
広く声掛けをしてほし

ゴールデンガールズ
ファンクラブ副代表
石川 澄子さん



ゴールデンガールズ
ファンクラブ代表
小室けい子さん



新春

2019 座談



いんです。
（石川）村山市を盛り上げるために私たちも頑張りますが、議員の力は市民への大きな影響がありますので出来るだけファンクラブとブルガリアが盛り上がりやすいようにお願いします。

（浅黄）全力で全開で「おばあちゃんパワー」

で頑張っています。今後とも応援してほしい。
—— 私たち議員も含め、市民レベルで頑張っていかなければなりません。

ところで、ファンクラブのレガシー（遺産）とは何でしょうか。

（小室）せっかくの素晴らしいチャンスを活かさない手はないと思

っています。レガシーの1つ目は、体育館が改修され、パラリンピックも入れてスポーツが盛んになることです。2つ目は、市民ボランティアのおもてなしが「村山市は外国や県外の方を温かく迎えるところだ」と思ってもらえることです。人の温かさを残すことがレガシーになります。この2つが将来へ永く残っていく村山市の活力になり、その一端を担いたいです。

（石川）「新体操といったら村山市」と言われるようになり、全国大会や国際大会が開催できようになりたいですね。

—— 私たちも皆さんの頑張りに頭が下がります。言葉が分からないなかで片言の英語で活動されていることに感心させられます。通訳が付いているわけではないですね。

ゴールデンガールズ
ファンクラブ副代表
浅黄きよみさん



（小室）通訳は付いていません。翻訳機もたまに使いますが、英語や身振り手振りで話しています。

（石川）言葉ではなく熱意で話すことを知り得たのは大きいです。

（浅黄）目と目を見ながら、しぐさで通じるところがあるんですよ。

—— 最後に皆さんからブルガリア新体操選手団に一言お願いします。

（浅黄）東京オリンピック出場おめでとう。目指せ金メダルですね。世界地図で毎日ブルガリアとソフィアを見て応援しています。

ダバイ（頑張れ）！

（小室）ブルガリア！今年のローズキャンでも成功するように頑張ってください。

（石川）練習大変でしょうが、健康に気を付けて、今年もお待ちしています。そして、本番では、悲願の金メダルを取ってください。東京に行つて応援します。

（小室）私たちも一丸となって応援していきます。コーチとチームメイトが心と心を繋いで誇りを持って練習して、最高の演技をつくってください。

—— 本日は、ありがとうございました。

ありがとうございました。

11月30日から12月14日の会期で12月定例会が開催され、条例5件一般会計・特別会計補正予算5件その他の議案2件が原案のとおり可決しました。

その結果、一般会計では、歳入歳出それぞれ2億615万円を追加し、総額137億7773万円となりました。

条例

◎村山市議会議員及び村山市長の選挙における選挙運動用自動車の使用等の公営に関する条例の一部を改正する条例について

公職選挙法の一部改正に伴い、市議会議員の選挙における選挙運動用ビラの作成に係る公費負担について規定を整備するものです。

(全会一致で可決)



改築になった楯岡小学校

◎村山市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報情報の提供に関する条例の一部を改正する条例について

生活保護法の一部改正に伴い、特定個人情報利用範囲について規定を追加するものです。

◎村山市福祉医療費の支給に関する条例の一部を改正する条例について

山形県医療給付事業補

助金交付規程の一部改正に伴い、所要の改正を行うものです。

◎村山市特別職に属する者の給与等に関する条例の一部を改正する条例について

市長等及び議員の期末手当の支給割合について改定するものです。

◎村山市一般職の職員の給与に関する条例の一部を改正する条例について

山形県人事委員会の勧告を踏まえ、勤勉手当及び給料表の改定等を行うものです。

(全会一致で可決)

その他

◎契約の締結について村山市中学校給食調理・運搬業務委託について契約を締結するものです。

(全会一致で可決)

◎市道路線の認定について

東北中央自動車道整備事業により新設された側道等について、市道路線の認定を行うものです。

(全会一致で可決)

請願

◎ライドシェアの導入に反対し、安全・安心なタクシーを国に求める意見書の提出について (全会一致で採択)

◎継続審査となっていた種子法廃止に伴う万全の対策を求める請願 (賛成少数で不採択)

発議

◎ライドシェアの導入に反対し、安全・安心なタクシーを国に求める意見書の提出について (全会一致で可決)



暑い夏、勉強する子どもたち

主な補正予算

福祉灯油券助成が3千円から5千円に

◎子育て応援定住促進事業補助金 1千万円

◎福祉灯油代支援補助費 680万円

◎病児保育事業補助金 186万円

◎園芸大国やまがた産地育成支援事業費補助金 136万円

◎小規模農地等災害緊急復旧事業費補助金 115万円

◎中心市街地活性化空店舗対策支援事業費補助金 50万円

◎余暇開発施設整備事業 907万円

◎道路新設改良事業 2080万円

◎除雪委託料 9200万円

◎教育ICT環境調査設定等委託料 243万円

◎小学校冷房設備整備事業(測量設計等委託料) 278万円

◎中学校冷房設備整備事業(測量設計等委託料) 251万円

◎最上川美術館管理運営費 112万円



代表質問

市政・公明クラブ 大山 正弘 議員



定住促進について

Q より良い生活空間を目的とした『立地適正化計画策定』の取り組み状況について。

A 本市の人口減少や少子高齢化の状況を踏まえ、将来を見据えた暮らしやすい住環境づくりと、全市民が快適に生活できるまちを目指した『立地適正化計画』を、30年度から2力年かけて策定する。

Q 旧楯岡高校跡地利用を検討するワーキングチームとは。

A 公募の活用希望者11名と学識経験者などで組織した旧楯岡高校跡地利用ワーキングチームにおいて、跡地利用の全体方針や導入機能、今後の整備・運営方針などの検討が行われ、30年6月から8月末まで議論を行いパブリックコメントを実施した。ワーキングチームにおける議

論の成果をまとめた基本構想案では多様な利用者が集い、にぎわいの創出と経済効果を生む拠点を跡地利用の全体方針としている。

観光交流の施策は

Q 観光産業づくりを目的し、観光交流を育てていく施策は。

A 観光施策の目的は民間の経済活動の活性化と考えており、本市の観光発展のため、行政と余暇開発公社や観光物産協会など、商業者や農業者の民間相互連携が必要である。

計画の基本は、第5次総合計画にある913万人のファンづくりである。そば・バラ・徳内まつりのキャッチフレーズのもと事業を展開。これらの観光資源を大切に守るため、東沢バラ公園の改良に着手し、香りのバラ公園構築に取り組む。また、居合道発祥の地の利を生かし、新たに居合道

体験プログラムを旅行商品化し販売を開始している。

Q 盛況に終えた本年の大わらじ奉納。

A 10年後の奉納への事業展開と伝承、継承は。

Q 今回で8回目の大わらじ奉納では荒町地区から200人を含め、本市より千人の参加があり、奉納事業も大成功に終了、浅草寺側も大変喜んでおり、荒町地区民も奉納に大いに感銘を受けた。また、10年後も必ず奉納するとの約束が交わされた。浅草寺境内で行う大わらじの里山形県村山市観光物産展などの活動を進める。第9回奉納に向けて、合川一号の種子保管や世代間伝承など、荒町地区

にも課題はあるが本市の一大事業でもある。9回目の奉納に向け、本市として楯岡荒町の意向に沿って、精一杯協力したいと考えている。

農業の戦略を示すべき

Q 産業として農業をなりわいとしていく実数を伺う。

A 経営耕地面積が30a以上、年間農産物販売が金額が50万円以上を販売農家とし、30a未満年間50万円未満を自給農的農家としている。販売農家は平成22年で1995戸から5年間で471戸減少し、自給農家は平成22年の758戸から5年間で74戸増加している。

Q 農業法人の実数と問題点は。

A 農業法人数は30年11月末で17法人、ここ5年間で6法人増である。経理担当者の

8代目一新した大わらじ奉納



育成や冬場の仕事の確保の課題を解決し、今後も法人化に関する研修会を開き支援する。

Q 農地の集積の方針、本市の考えは。

A 農業人口が減少している中、農業の発展を図るためには生産コスト、作業の省力化に取り組み、安定経営を目指し中間管理事業を活用し、集積・集約を図って行く。



産業農業を目指す基盤整備

不断の見直しが必要

Q 行財政改革について。

A 第3次行財政改革プランに沿って職員数の減や施設の民営化などを進めた。世の中の動静によって、計画以上に削減しなければならないと考える。

代表質問

改革クラブ 菊池大二郎 議員



子育て支援事業について

Q 年度途中に育休の短縮や移住による転入があった場合でも保護者側・受け入れ側の双方にとって、安心かつ見通しのある環境づくりが不可欠。この点、受け入れ枠拡大のため、ひばり保育園の改修が予定されているが、求められるのは、やはり保育士の確保ではないか。

A 何回も応募をかけたにもかかわらず苦慮している。今後とも頑張りたい。

Q 人口減少が著しい中、共働き家庭の増加により、学童保育の拡大が急務。政府は、放課後児童支援員の配置基準を緩和する方針だが、子どもの安全確保の点で懸念もある。こうした現状を踏まえ、いかに支援員を確保するのか。

A 国・市で金銭面や待遇面を考え、検



旧しろはと保育園は学童保育施設へ

討していきたい。

Q 新生児の紙オムツ用のゴミ袋を無料配布し、子育て世帯の負担軽減を図ってはどうか。

A 検討したい。

児童生徒のメディアコントロールについて

Q 平成25年度の内閣府による調査では、全国における中学生のスマホ所持者の割合は、平成22年度で2・6%だったが、平成25年度には47・4%まで上昇。また、近年「ネットいじめ」も深刻化。仙台市の調査では、スマホの使用時間が長いほど

成績が悪いという結果も。保護者と一体になり、メディアに対していかにコントロールしていくかが必要では。

A 今年度の本市児童生徒のスマホ所持率は、小学生で31・4%、中学生で46・1%。相当手ごわい問題だが、昨年度、楯中が全国保健づくり推進校の最優秀校に輝いており、家庭・地域と協力した取り組みを繰り返して行っていきたい。

Q 水道事業は現時点で財政の健全性が確保されているが今後さらなる漏水対策や老朽管の更新が必要。一方で、下水道事業については人口減少の影響

今後の上下水道事業の経営戦略について

Q 今後の飯豊町と大石田町の対応をみていきたい。



水道基幹管路の耐震適合率は34.3%

A もあり、昨年度末で地方債残高が73億円を超え、今後の使用料金の高騰が懸念される。広域化や民営化を含め、どう考えているか。

Q 所有者不明の土地への対応について

A 飯豊町・大石田町にて外資系会社を事業主体とする太陽光発電所建設計画がある。明日は我が身の思いで、こうした土地利用計画を想定した対策が必要ではないか。

Q 今後の飯豊町と大石田町の対応をみていきたい。

A 所有者不明の土地は全国で19・8%にのぼり、九州を上回る面積。荒廃する林地を公

有化したり利用権を設定し、その解消に努めるべきではないか。

A 関係部局が連携し、解決にあたりたい。林地については来年度から始まる森林経営管理制度を研究し進める。行政委員制度の在り方について

Q 市内135地区のうち、8世帯地区もあれば、300世帯を上回る地区も。合区や分区により平準化が求められるのでは。

A 危惧している。自主的な合区には応じたい。

市有地の利用に対する考え方について

Q 平成28年度9月定例会における説明では、駅西ホテル経営について株式会社マツキ側が4割出資することだったが、本当に会社として出資しているのか。

A 会社ではなく、個人が出資している。



石澤 祐一

今後の国際交流推進は

答弁 ヤクーツク市へは

代表団派遣が必要

Q 当市ではロシア・ヤクーツク市との国際交流を始めてはや26年になりほかにカナダ・ドイツ・オランダ・ブルガリアと交流しているが、今後の計画及び方針は。

A 姉妹都市ロシア・サハ共和国の首都ヤクーツク市とは盟約を結んでから途切れがちになっていた。招待状が届いており、交流の活性化のためにも代表団派遣が必要と考えている。

友好都市カナダ・バリー市や最上徳内記念館と友好博物館協定を結ぶオランダ・シーボルトハウス・2020東京五輪・パラリンピックに向けた市のホストタウン対象国ブルガリアとは、若者を中心

にした市民訪問団の派遣も含めて交流の在り方を検討していく。国際感覚の向上、相互理解を深めたい。

Q 電力自由化による経過措置が2020年3月で撤廃されれば当市への公衆用電灯料金・農事用電力への影響は。

A 現在、国で検討しているが、公衆用電灯料金については影響はあまりないと思われる。農事用電力で一番大きなかんがい用揚水機の電力費は3000万円上がると思われる。国の動きを注意して見守っていく。



徳内まつりで交流するバリー市青少年訪問団



川田 律子

子どものインフルエンザ予防接種を助成すべきでは

答弁 経済的に困難な世帯から

支援する

Q 子育て世帯の医療費負担の軽減を図るために各種予防接種の助成の拡充策を問う。①6か月から中3までのインフルエンザワクチンの助成について②1才児から年長児までのおたふく風邪ワクチンについて

A ロタウイルスワクチンの助成については新年度から実施予定。インフルエンザ、おたふく風邪については、経済的に困難な世帯から支援していく。一般家庭は今は自費でやっていたら、今後段階的に考えていく。

Q 公立保育施設再編事業として、戸沢保育園、ちぐさ・富本両認定こども園の運営のあり方などの方向性を検討するとあるが、

具体策を問う。

A 2つのこども園については、予定より早く20人を切る予定。少子化、施設の老朽化保育士不足で何らかの方向性として統合もやむを得ないのでと考える。場所は敬愛信の会でやれば保育士の心配はない。どちらにし

ても施設は新築を考えている。

Q 市長は4つの公設公営の保育施設は自分そのまま続けると言っていたが。

A 1つの公設公営は残すが、それ以外は公設公営か公設民営か選択肢である。



平成30年4月にスタートしたちぐさ認定こども園



中里 芳之

学校小規模化に対する保護者の不安は

答弁 学力など全然心配はいらない

Q 「少子化だから学校統廃合を」というのは、論理に飛躍がある。しかし心配する保護者がいて当然だ。学校小規模化に対し保護者が持つ不安をどう把握しているか。

A 複式授業で学力や対話能力の向上について心配する保護者が、入学前の保護者に多いのではと思うが、こういう不安は入学すると解消できる。実態は、学力も対話能力も全然心配はいらない。

Q そういった不安をおおってきたのは教育行政自身だ。規模による長短をもう一度捉え直し、小規模校や複式学級の良さを市民全体にアピールすべきではないか。

A 今ある学校を見て、良い点や改善すべき点をおさえていくことが大事だ。

Q 通学班の問題やPTA活動における負担の問題など、小規模校であるがゆえの問題について、学校ごとに把握して対応を。

A どんな不安があるか把握に努力する。地域との協力もますます大事だ。

Q 国会答弁からも、義務教育無償化には学校給食も含まれるのは明らかではないか。給食費無償が義務教育の延長にあることが腑に落ちない。



小規模校での学校行事



矢 萩 浩 次

畑の耕作放棄地をどうする、遊休農地活用は

答弁 農産物集団化、スマート農業と農地の集約化が鍵

Q 畑の耕作放棄地の解消、遊休農地の有効活用として、継続的に安定した生産が可能となるよう、畑を大規模に集積し、区画整理などの基盤整備を進めることが有効と考えるがどうか。

A 高齢化や離農者増、担い手不足で全ての農地を守ることは困難、将来守るべき農地エリアを定めることが重要である。農地と人を繋げる農産物の集団化、※スマート農業の基盤構築と農地の集約化が鍵である。

Q 「本市の特産品」をつくりだすことが大規模化・法人化やスマート農業とも相まって、魅力ある農業となれるのではないか。

A 将来大きく展望の開けるものであり、スマート農業や省労力で良い農作物生産を支援する。特産品が本市の「ブランド」になるために知名度のアップや農家の収益増を目指す。

Q スマート農業への取り組みと課題は、積極的な補助と支援を

A 望む。実用化が進み普及してきており、本市の農家でも期待と関心は高いが、高いコスト、中山間地や家族経営者へ普及が課題である。費用対効果を把握し、地域に合った補助メニューを用意、普及に向け手厚く支援を考えていく。



集約化を待ち望むそば畑



高橋 菜穂子

教育環境の充実に向けて学校の適正配置を

答弁 方針と策定方法とともに

研究していく

Q 村山市立小学校の適正規模及び適正配置に関する基本方針

第二期配置計画が平成28年から32年までの計画となつているが、次の計画策定のスケジュールと方針を問う。教育環境の充実に向けて、小学校だけの計画ではなく、見直しが予定されている保育施設ならびに10年後には1クラスになる葉山中学校までを含めて総合的な検討をしてほしい。

A 今後、計画の策定期間、方法を教育委員会で研究し、できるだけ早く具体策を示したい考えである。基本方針そのものについても議論の必要があり、市民の幅広い意見も聞きたい。

Q 市内小学校の多くは、築30年を迎え

大規模な改修が必要となつてくる時期だが、改修についてどのような考へているか。

A 平成32年までに小中学校の長寿命化計画を策定し順次整備していく。

Q 産直は、市内の農家の所得向上や、

地産地消の推進などの役割がある。道の駅の産直を施設内に整備して、リニューアルしてはどうか。

A トイレの整備などと合わせて検討したい。



道の駅むらやまの産直と店内

地方創生対策特別委員会

最終報告

当委員会は、これまで30回を超える活動を通じ、地方創生事業の経過と実績を検証し、

地方創生事業の在り方について研究を重ねてまいりました。委員会設置から、2年半という期間の中で人口減少について成果が表れることは困難ですが、分析に基づく政策を打ち出し継続していくことが重要です。事業の継続には評価と検証をし、常に改善をすることを希望します。

本年度追加事業

※ICT活用による地域産業活性化を核とした魅力ある「しごと」創出と、稼げる「ひと」づくり戦略について本市に足りない二つの要素を指摘しました。ひとつは財源で、地方創

生交付金は3年の区切りがあるものなので、

その後も持続可能な事業計画であることを望みます。もうひとつは人材不足で、市内にいる優秀で熱意ある「ひと」を活かすための企業との連携や、人脈とセンスをもつ「ひと」を登用することも積極的に検討するべきだと考えます。

人口動態の分析

20代から40代の女性の総数の減少と、合計特殊出生率の低迷という二点が人口減少を加速させています。合計特殊出生率は1・43%であり全国平均並みです。女性の総数が増えない背景としては、進学と就職または結婚による転出があり、女性の就職と職場の確保、

そして、結婚後も住み続けたいと思う誇りのもてるまちづくりが必要です。

結婚の意思があるのに結婚しない男女の存在があり、結婚活動に対する支援は継続の必要がありますが、結婚後の生活を実現させるための所得向上に結びつく産業振興の重要性を確認しました。

今後は、各常任委員会に「農業を含む産業振興」「魅力的なまちづくり」「子育て環境の整備」について人口減少対策として検証することを引き継ぐこととします。

委員長 高橋菜穂子
副委員長 矢萩 浩次
委員 海老名幸司
中里 芳之
菊池 貞好
犬飼 司

議会報告会

報告会の開催要綱の変更により、議会運営委員会で班編成を決め、年一回以上開催することになりました。

今回は、委員会ごとにテーマと対象団体を決めました。総務文教常任委員会では、「地域における子どもたちの状況」と題し「市PTA連合会・市連合子ども会育成会」と、産業厚生常任委員会では、「村山市の子育て事情」と題し「村山市学童保育連絡協議会」と意見交換をしました。

課題の中から議会としての要望事項をまとめ市長に提案します。

総務文教常任委員会

産業厚生常任委員会



10月30日 農村環境改善センター



11月6日 地域交流活性化センター

●子どもの屋外の遊び場について、放課後・休日などに遊ぶ場所がない状況であるため、クアハウスの遊び場構想を含め各地域に屋外の遊び場設置を望む。

●市内各所において、通学路の不備が指摘されている。安全に通学できるような道路整備、除雪強化を望む。

●各地域内で通学版を編成できない地区があるので、通学に不安がある。スクールバスの配置等の検討を望む。

●利用する学童数が多く、従来の施設が狭くなっているため、スペースの確保と指導員の拡充対策を望む。

●5年、10年後を見据えて、小規模の学童保育でも安心して運営できるよう、市独自の財政支援を講じられるよう望む。

●指導員不足解消のため、経験年数に応じたキャリアアップ処遇改善を導入し、人材が確保できるような措置を望む。

審議結果報告

(12月定例会において賛否の分かれた議案・請願についての記載しました)

議案等の名称	議員名	議決結果	市 政 公 明 ク ラ ブ											賛 反						
			矢秋 浩次	高橋 菜穂子	石澤 祐一	森 一弘	大山 正弘	茨木 久彌	海老名 幸司	川田 律子	中里 芳之	犬飼 司	菊池 大郎	結城 正	菊池 貞好	佐藤 昌昭	秋葉 新一	長南 誠	賛成	反対
市長提出 条例 村山市行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例について		可	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	○	○	○	○	13	2
請願 請願1号 種子法廃止に伴う万全の対策を求める請願(継続審査)		不採択	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	○	7	8	

正副議長及び監査委員は会派に属しません。議長は可否同数の場合以外は採決に加わりません。

可=可決 否=否決 ○=賛成 ×=反対

百聞は一見にしかず!!

よりよい行政のための 視察活動 レポート

議会運営委員会

10月11日～12日 視察調査

議会改革

当委員会は、町田市、所沢市を訪問し、議会改革の取り組みについて視察調査を行いました。

町田市では、議員間討議、意見交換会、議員の欠席届について、所沢市では、タブレット端末の導入、自由討議などについて調査を行いました。

タブレットを上手に活用できれば執行部との良い緊張感と議論の深化が期待でき、さらにモニターを使えば、わかりやすい議論が行えるとのことでした。



タブレット端末導入の調査(町田市)

議会活動

■10月

- 1日 議会だより編集委員会
- 2日 水道祭・下水道祭
- 3日 共立衛生処理組合議会議員視察研修（～4日）
- 4日 議会だより編集委員会
- 5日 三市一町議会議員交流会
- 7日 東京村山会（～8日）
- 9日 北村山広域行政事務組合定例会
- 11日 議会運営委員会視察研修（～12日）
- 13日 やまがた美しい森林づくり推進大会
- 14日 市一周駅伝
- 17日 産業厚生常任委員会行政視察
- 19日 全員協議会
- 21日 大わらじ奉納式
市政・公明クラブ視察研修（～22日）
- 24日 北村山広域行政事務組合視察研修
- 30日 議会報告会（総務文教）
東北市議会議長会理事会

■11月

- 1日 全国市議会議長会基地協議会東北部会総会（～2日）
- 3日 ふるさとフェア村山
- 5日 議会だより編集委員会
- 6日 東北中央自動車道建設促進協議会要望活動
議会報告会（産業厚生）
総務文教常任委員会協議会
- 7日 議会報研修会
- 12日 山形県市議会議長会定期総会
- 14日 議会運営委員会協議会
- 16日 東北中央自動車道建設促進協議会要望活動
- 17日 むらやま教育のつどい
- 18日 大わらじの里観光物産展
- 19日 県知事・県議長への実行運動
- 21日 全員協議会
村山市活性化推進議員連盟総会
楯高跡地利用説明会・見学会
- 22日 共立衛生処理組合定例会
- 26日 議会運営委員会
議会だより編集委員会
総務文教常任委員会協議会
- 28日 全員協議会
- 30日 本会議

■12月

- 4日 代表質問
- 5日 一般質問
- 6日 一般質問
産業厚生常任委員会協議会
常任委員会
- 10日 地方創生対策特別委員会
- 11日 議会だより編集委員会
- 12日 常任委員長会
- 13日 議会運営委員会
- 14日 全員協議会
本会議
- 18日 楯岡小学校内覧会
- 19日 議会だより編集委員会
- 21日 北村山広域行政事務組合臨時会
- 25日 北村山公立病院議会定例会
- 26日 議会だより編集委員会

産業厚生常任委員会 行政視察 10月17日

○米沢市道の駅「米沢」
○天童市「歩くつるかめ」

オール米沢（置賜）を体感・創造・発信する道の駅をコンセプトに昨年4月20日にオープンし、10月5日に来館者数は100万人を達成しており、東北5カ所目の重点「道の駅」に選定されています。天童市の居宅介護支援事業所「歩くつるか

め」は平成28年にオープンし、最新の設備と専門職を配置して、活動的に人生を楽しみたい方、そのためにリハビリを頑張りたいという方のデイサービスです。



道の駅「米沢」

市政・公明クラブ 行政視察 10月22日

○鋸南町都市交流施設道の駅「保田小学校」

廃校をリノベーションした全国初、小学校と名の付く道の駅。農林水産物の販売や6次産業化を通じた農林漁家の経営安定、観光や食の情報発信、都市との交流活性化拠点であり、町のワンストップ窓口と、街全体のコンシエルジュ機能も

担っています。体育館を使った産直宿泊施設は教室を活用した全国的にもユニークな道の駅で、買・食・泊・知の都市交流施設として地域から愛されています。



道の駅「保田小学校」

議会報研修会 11月8日

イメージはラーメン完食

講師は（株）アサヒマーケティング、月刊ヨミウリウエイ編集長、岡崎彩氏で「わかりやすい・伝わりやすい文章術」と題しての講演を天童市にて受講しました。

一部では、伝わる文章を構成する17のポイントをラーメンの完食にたとえ、最後まで読んでもらえるようにす

るための所要所のポイントについて話して下さいました。

二部では、各市の編集委員より議会報作成時のポイントを発表し、講師より評価できるところと改善点のアドバイスをいただきました。本市は、良い点をたくさん評価されました。



新年のごあいさつ

創刊百号に寄せて



陰であり、心より感謝しております。

あけましておめでとうございます。市民の皆さまには、お健やかな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

新春にあたり、私たち議員も決意を新たにしているところですが、この意気込みが、表紙写真からも伝われば幸いです。幸運を招く熊手は、台東区

議会より友好都市提携10周年を記念して贈呈されたものです。

さて、このたび、議会だよりは、第百号という記念号となりました。四半世紀にわたり発行できましたのは、市民の皆さま、先輩議員の方々のお

議会では、「村山市議会基本条例」を制定するなど、改革に取り組んでまいりました。市民の皆さまから、「身近な議会、開かれた議会」と感じていただけるよう、これからも議会改革を推進する

とともに、より親しみやすい議会だよりを発行してまいる所存です。これまでと変わらぬご理解、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

本年は、改元の年でもあります。市民の皆さまにとつて、笑顔あふれる新時代の幕開けとなりますよう、ご祈念申し上げます。挨拶とさせていただきます。

村山市議会議長
長南 誠

「議会だより」 25年のあゆみ



第1号
平成6年5月1日発行
「創刊号」



第10号
平成8年8月1日発行
すもう
「相撲大会」



第30号
平成13年7月15日発行
「山ノ内太鼓」



第43号
平成16年10月15日発行
「村山市議会50周年特集号
旧、町村時代の思い出」



第60号
平成21年1月15日発行
「楯岡幼稚園の
こどもたち」



第81号
平成26年4月15日発行
「村山産業高校
又新連部」

議会だより
編集委員会

委員長／秋葉 新一 副委員長／川田 律子
委員／石澤 祐一・高橋菜穂子・菊池大二郎・矢萩 浩次・犬飼 司